

エジプト 果汁工場の台頭で生鮮果実の梱包が停止

[FreshPlaza](#) 2025年4月7日

エジプトのほとんどの梱包施設が柑橘類の包装を一時停止することを決定

エジプトの柑橘業界は今シーズン大きな変化に直面しており、最近ではほとんどの梱包施設で生鮮柑橘類の包装作業が完全に停止する事態に至っている。TCフルーツ社のワリド・ハッサン氏がこの状況について報告する。(以下「」は同氏の話)

振り返ってみると、エジプトでのオレンジ果汁濃縮工場の台頭は、オレンジの調達をめぐる激しい競争を引き起こし、生鮮柑橘類を輸出する梱包業者が入手できる供給量が制限されている。ハッサン氏は、梱包業者はもはや対応することができなくなったと言う。「イード休暇(今年は3月29日～4月1日)の後に仕事が再開されて以来、生産者は過度に高い価格を要求している。梱包業者の大多数はこれらの価格を受け入れることができず、柑橘類の事業を一時停止することを決定した。」

「柑橘類濃縮工場は、魅力的な価格と、全額前払い等のより良い支払い条件を提示しており、大量の果実を引き取ることができる。今日、生産者は原料としてのバレンシアオレンジとレモンに20エジプトポンド/kg以上を求めているが、輸出業者にとってこれはもはや利益を生む価格ではない。ワックス処理、選別、格付け、梱包が必要で、しかも原料果実は輸出に適さないものが多いことを念頭に置くと、市場はこれらの価格を受け入れることができない。」

これらの混乱は、エジプトのオレンジ出荷シーズンの終盤を混乱させている。「ほとんどの梱包業者は、現在、もうすぐ出荷シーズンが始まるブドウなどの他の果実に目を向けている。自社でオレンジを生産している輸出業者は、引き続き柑橘類の事業に供給することができる。」

「これは、業界における継続的な変化の始まりである。エジプトでは、生鮮柑橘類の輸出を犠牲にして、加工用柑橘にシフトしている。主要な輸出業者は、既に自社の柑橘類濃縮工場を立ち上げたか、その過程にある。」

ハッサン氏によると、この変化は、生産者にとって不利益であった生鮮柑橘類輸出業界の慣行を排除するものである。「生産者達は、小玉のオレンジの価格を下げようとせず、法外な支払い条件を適用しない濃縮工場と取引することを好んでいる。さらに、加工することによって柑橘類の貯蔵寿命が大幅に長くなり、大企業と小規模農家の両方にとって優れた解決策となる。我々は業界の根本的な変化を目の当たりにしている。」

執筆者: ユーネス・ベンサイド

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)